

# TACSロンソン スピード フェスティバル

6月8日 筑波サーキット  
主催 TACS(東京自動車クラブ)

TACSロンソンスピードフェスティバルはクラシックカーレースがメインに出て、本当のイベントのカダがうすくなってしまったが、FL500/FB360、ノーマルカーレース、ストックレースが行なわれた。

## 〔ノーマルカーレース〕

関東地方では初めてというノーマルカーレースは、基本的にはノーマルジムカーナと同じ車両規定で行なわれた。しかしサーキットレースということでロールバーや他の安全規定は満足するように義務づけられている。参加したドライバーもノーマルジムカーナのチャンピオンである稲村政幸をはじめとして、ほとんどすべてがジムカーナドライバー達である。

ブラクティスでは稲村のサニーが1分20秒25と速くポールポジション、彼はフロントにダンロップのSPスポーツ、リヤにはBS102のスリックを付けている。最初前後ともSPスポーツで走っていたが、リヤのくいつきが良すぎて結局リヤにBS102のボウズタイヤを付けた方がタイムが上がったという。同じように彼はスペアタイヤを積んでリヤの荷重を増して走っている。

ブラクティス2位は安田守のFTOで1分21秒28、3位は立石忠のサニーで1分21秒37で、この3台が最前列である。参加台数は14台、そしてエキジビションとして大宮雅子のマックスと池田米造のフロントが最後尾にいる。

10時40分スタート、周回数6周である。予定どおり稲村がトップ、つづいて宮田のFTO、立石のサニーの順。稲村は実力どおりの走りだが、コースのとり方は、最初からイン、インで走り宮田に抜くチャンスを与えない。エキジビションの大宮は、スタートできず、グリッドに残されたまま、なんとステアリングロックが外れないままエンジンがスタートしないのだ。思わぬトラブルでピットに押されていく。3周目、6位を走っていた伊東道雄のサニーが、ダンロップブリッジをすぎた所でスピン、ガードレールに乗り上げてリタイア。トップは稲村で宮田とは1秒以上はなれている。稲村はそのまま安定したペースで6周を走り優勝、2位は宮田、3位は立石であった。

いつもは1分以内の走りに熱中しているドライバーたちだが8分と少しのレースを終えた時の感想は、のどが潤いた！と、また、このようなレースがあったら出場したいであった。